

ヒヤリングアート NEWS LETTER

Vol.18
2026. Spring

シグニア・ワイデックス補聴器 (WSオーディオロジージャパン株式会社)

デイビッド シン 社長

“私が何よりも大切にしているのは、「信頼」です。まずは相手の話をしっかり聞くこと。そこからすべてが始まると考えています。”

そう語るのは、補聴器メーカー シグニア・ワイデックスの代表取締役社長、デイビッド シン氏。父の仕事の間近で見て育ったこと、現場でお客様一人ひとりと向き合ってきた経験、そしてメーカーという立場になった今、改めて見えていることについてお話を伺いました。



左:ヒヤリングアート 代表 園原 右:シグニア・ワイデックス シン社長

補聴器業界に入ったきっかけを教えてください

私のキャリアの原点は、父が補聴器の専門店を営んでいたことです。父は公務員として長く働いた後、定年退職を機に補聴器店を開きました。正直に言うと、最初は「なぜ補聴器なのだろう」と思っていました。でも、父が聞こえに困っている方を支え、その方の生活が前向きに変わっていく姿を見て、補聴器が人の人生に与える影響の大きさを実感するようになりました。

聴覚について学ぼうと思った理由は？

父の勧めもあり、大学院で専門的に学ぶことを決めました。実際に学んでみると、この分野は非常に奥深く、聴覚そのものだけでなく、電気的な技術、製造の知識、さらには心理的な側面まで含まれています。「聞こえ」を多角的に捉えられることに、大きな魅力を感じました。

最初は販売店からキャリアを始められたのですね

大学院にいた頃は、多くの方が“病院で働く聴覚専門家こそが最良のキャリアパスだ”と考えていました。しかし幸運なご縁があり、修了後は補聴器販売店で働き始め

ました。研究や理論だけでなく、実際の生活の中で補聴器がどのように使われ、どんな影響を与えるのかを知りたいと考えたからです。

現場での経験の中で、特に印象に残っていることはありますか？

現場で強く感じたのは、言葉一つひとつが人の気持ちや、その後の人生にまで影響するということでした。私は誠実でありたいという思いから、補聴器でできることの限界や制約などのネガティブな話を中心に伝えました。その結果、補聴器の効果がでていながらもかかわらず、ご本人は十分に満足できず、気持ちまで落ち込んでしまわれたのです。支えたいと思っていたはずなのに希望を奪ってしまったのではないかという後悔が残りました。

この経験から、最初に伝えるべきは限界ではなく、「補聴器によってどのような生活の変化が期待できるのか」という希望だと気づきました。ポジティブな側面を丁寧に伝えることで、お客様の表情や満足度が大きく変わっていきました。この現場での経験は、今も私のコミュニケーションの原点になっています。

現在、メーカーの社長として大切にしていることは？

私の使命は、質の高い補聴器を提供することだけではありません。販売店の皆さんと同じ目線で、聞こえに困っている方の声に耳を傾けることが大切だと考えています。技術は日々進化していますが、人と人との関わりの大切さはいつの時代も変わりません。



補聴器販売店でお客様と向き合った経験は、今も私の大切な財産となっています。

コミュニケーションの中で大切にしていることは？

社員との関係で最も大切にしているのは「信頼」です。常にオープンで一貫性のある姿勢を心がけ、まずは相手の話をしっかり聞くことを大事にしています。

もう一つ重視しているのが権限移譲です。メンバー一人ひとりが自ら考え、判断できる環境をつくりたい。そのためにも、上から教えるのではなく、信頼して任せる姿勢を大切にしています。私が常に心に置いている言葉は「忍耐」です。すぐに結論を出すのではなく、相手の声に耳を傾け続けることが、信頼関係を育てると信じています。

補聴器の未来について、 どんなビジョンを描いていますか？

私の夢は、補聴器の装用開始年齢を10年早め、65歳まで引き下げることです。軽度から中度の難聴の段階

で、もっと気軽に補聴器を使える社会をつくりたい。補聴器には限界がありますが、専門家のサポートがあれば、生活の質は大きく向上します。メーカーと販売店が協力し、より多くの人にその価値を届けたいと考えています。

最後に読者へのメッセージをお願いします

補聴器は正しいサポートと信頼関係があれば、日々の生活を前向きに変えていく力を持っています。もし聞こえに迷いや不安があれば、一人で抱え込まず、信頼できる専門家に相談してみてください。小さな一歩が生活を大きく変えることもあります。

私たちはこれからも、一人ひとりの声に耳を傾けながら、より良い「聞こえ」と、その先にある豊かな暮らしを支えていきたいと思っています。

WIDEX ALLURE シリーズ

使えば使うほど自分に合ってくる補聴器

世界中の装用データを参考にして、より自然で聞き取りやすい音になるように、補聴器が自動で進化していきます。



言葉の明瞭化

自然な装用感

使用データ蓄積

1台 264,000円~704,000円 (充電器込み)

signia IXシリーズ

言葉の明瞭化をさらに実現

ワードロックオン機能搭載により、「力行」「サ行」のような、取りこぼしがちな音をより正確に、くっきりとした明瞭な聞こえに。



言葉の明瞭化

複数人での会話

反響音の抑制

1台 170,000円~674,000円 (充電器込み)

スタッフ紹介



豊中本店 井上 光士郎 (いのうえ こうしろう)

はじめまして。2025年8月にヒヤリングアートへ入社いたしました。趣味は劇場で映画を観ることで、休みの日にはよく映画館に足を運んでいます。お客さまの中にも、補聴器を通して日常会話だけでなく、映画や音楽を楽しみたいと感じている方がいらっしゃるのではないのでしょうか。そうした思いに寄り添いながら、「一生懸命」「全力投球」で取り組んでまいります。まだまだ至らない点もありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

補聴器ユーザーインタビュー

まえだ ひろき 前田 宏樹さん

幼い頃に難聴と診断され、リハビリとして音楽を始めた前田宏樹さん。現在はブルーグラスのフラット マンドリン プレイヤーとして活躍するほか、教則本の執筆や音楽講師、プロデューサー、作曲家として幅広く活動されています。音の世界で生きる前田さんに、音楽との出会い、聞こえ、そして補聴器の可能性についてお話を伺いました。



左：ヒヤリングアート 代表 園原 裕将、右：前田 宏樹

音楽を始められたきっかけは何ですか？

2歳の時に病気にかかり、その後テレビの音量を最大にしたり、呼びかけに反応しなかったりして、耳が聞こえていないことが分かったそうです。母が異変に気づいて病院へ連れて行ったところ、「聞こえていません」と診断されました。

その時、医師から「喋り言葉にも音程があるから、リハビリとしてピアノをやってみては」と勧められたのが音楽を始められたきっかけです。

ブルーグラスに惹かれた理由は何ですか？

父のLPレコードですね。家に山のようにあって、どれを聴いてもかっこ良かったのです。60～70年代のフォークやブルーグラス、カントリーに夢中になりました。

ヒヤリングアートの補聴器を使って、変化や違いを感じた点がありますか？

以前はハウリングが起きたり、聞こえにくさにストレスを感じる場面もありましたが、今は低音から高音までバランスよく自然に聞こえるようになりました。また、音の方向もはっきりと捉えられるようになり、どこからどんな音が来ているのかが分かることで、振り向かなくても周囲の演奏者の動きを把握できるようになりました。

「しっかり聞こえている」という安心感があり、演奏への集中度も高まっています。聞き取りやすさも大きく向上しました。驚いたのは、英語のリスニング力まで上がったことです。

ステージ上では、誰がどのタイミングでどんな音を出しているのかを、目だけではなく耳でも捉えられるようになり、この年になって改めて演奏することの楽しさを実感しています。

補聴器の調整（装用レッスン）について、どのように感じられましたか？

半年くらいかけて調整してもらいました。僕の要望ってすごく曖昧なんです。「このレンジの音がほしい」とか、感覚的なことが多くて。正直、どこまで聞こえるようになるのか最初は分かりませんでした。

でも園原さんは、そのぼんやりした感覚をしっかり拾ってくださるんです。「この音域を少し足してみましょう」などを提案してくれて、本当にすごいなと思いました。

機能面で便利になったことはありますか？

会話モードと音楽モードを切り替えて使っています。ボタンを押すだけで切り替えられるので、ライブ中でも状況に応じて使い分けています。以前の補聴器は会話優先的に聞こえてしまい、演奏中に前列のお客さんの小声が中途半端に聞こえてしまい、集中できませんでした。今は音楽モードでライブ中は演奏に集中できています。

最後に、読者へのメッセージをお願いします

補聴器がもっとカジュアルな存在になってほしいです。これから年齢を重ねて聴力が下がっていく世代には、音楽に触れてきた方がたくさんいると思います。もし補聴器によって音楽の感覚が戻る可能性があるなら、ぜひ一度相談してみたいですね。

補聴器の調整でこだわったこと！

難聴の性質を考慮しながら、ドラム、シンバルの大きな音がきれいに聞こえることや、マンドリンの弾いた後の残響音が自然な形で消えていくことにこだわりました。また、ライブ終了後のお客様との歓談時によく聞こえるよう工夫しました。



担当：園原

梅田で陶芸体験！

土と向き合う、穏やかな時間

梅田・茶屋町にある ゆう工房 梅田教室で、陶芸体験をしました。駅近とは思えない静けさの中、土に触れ、形をつくる時間。手を動かすうちに、自然と笑顔がこぼれます。スタッフの方の丁寧なサポートもあり、初めてでも安心。穏やかで、ちょっとワクワクする体験でした。

何をつくるか、から始まる時間

お茶碗、湯呑み、お皿、マグカップ。思い思いに、つくりたいものを自分で決めて陶芸のスタート。同じ空間にいても、選ぶものはそれぞれ。ここからすでに、作品づくりは静かに始まっています。

土にふれると、気持ちが整っていく

作業台に置かれていたのは、濡れた布に包まれた粘土。そのボールを手に取り、まずは「練る」工程から始まります。両手で土をこねていくと、ひんやりとした感触が心地よく、手を動かすことに集中するうちに、気持ちが少しずつ整っていくのを感じました。

練り終わったら、次は土台づくり。形を整えたあと、ひも状にした粘土をくるくると巻きつけながら、器の側面を立ち上げていきます。この工程は思っていた以上に集中力が必要で、自然と会話も減り、工房の中には静かな時間が



ヒヤリングアート・アビリーンスタッフに加え、アビリーンで活躍中の村上由紀さんと吉崎ひろしさんも参加しました。

流れます。土と向き合う無言のひとつきもまた、陶芸ならではの楽しさのひとつでした。

最後は、自分らしさをのせて

形ができれば、表面をなめらかにしていきます。そして最後は、色や模様を選ぶ工程へ。お花や動物の絵、模様だけのデザイン。決まりごとはなく、自由に表現できるのが嬉しいところです。同じ工程をたどっていても、仕上がりは一人ひとりまったく違う表情に。



完成した作品には、それぞれの個性が自然と表れていました。つくる時間も仕上がりも含めて、心に残る陶芸体験となりました。



ゆう工房 梅田

大阪市北区芝田1-10-3 野本梅田ビル 2～4F
TEL: 06-6377-6777 検索

補聴器のヒヤリングアート

ヒヤリングアート豊中補聴器センター(本店): 06-6848-4133

ヒヤリングアート池田補聴器専門店: 072-751-3341

ヒヤリングアート高槻補聴器センター: 072-683-4133

ヒヤリングアート茨木補聴器センター: 072-634-4133

営業時間: 10:00～18:00(ご予約優先) 休日: 水・日・祝【全店 認定補聴器技能者 常駐】

ミュージックカフェ & バー アビリーン TEL: 090-8643-4133
豊中市岡町北1-1-5 ラークスパ 2F(阪急岡町駅前) <https://abilene.jp>

ヒヤリングアート株式会社
大阪府豊中市岡町北1-1-15 1階
<https://www.hearingart.co.jp>

Hearing Art
ヒヤリングアート

ABILENE
MUSIC CAFE & BAR

ヒヤリングアート
HPはこちら



アビリーン
HPはこちら

